



Airbnb×建築家×吉野町のコラボで生まれた「吉野杉の家」 ～世界中からの人の流れを生み出したゲストハウス兼コミュニティスペース～

■Airbnbとして世界初の意欲的プロジェクト

2017年2月、吉野川のほとりにゲストハウス兼コミュニティスペースの「吉野杉の家」がオープンした。この建物は世界最大手の民泊仲介会社 Airbnb（本社：米国）が地域活性化や地域との共存を目指し、同社として世界で初めて建てた宿泊施設だ。設計は世界的に活躍する若手建築家の長谷川豪こう氏が担当し、吉野材の魅力発信のために木材提供・加工・施工など様々な役割で吉野町が住民を挙げて協力した。

運営管理は地元の木材事業所の後継者等で結成された有志グループ「Re:吉野と暮らす会」が町から委託を受け、同会を中心に地域住民28人がホストとなり持ち回りでゲスト対応を担当している。

Airbnbの世界初の意欲的なプロジェクトということで大きな注目を集めており、8月末までの半年間で見学者507人（うち海外から65人）、宿泊者201人（同55人）を数える。建築・デザイン・まちづくり等の関係者や専門家も多く、ここを目的地として世界中から人が集まっているという。

■様々な偶然とタイミングが重なり吉野に実現

プロジェクトのきっかけは、2016年夏に東京で開かれた住宅関連の展覧会「HOUSE VISION 2」のディレクターを務めたデザイナーの原研哉氏が、Airbnbと長谷川氏を引き合わせたこと。同展覧会へこの建物を出展して会期終了後に移築することになり、様々な偶然で吉野が候補地となった。

「2015年のクリスマスイブに長谷川さんとHOUSE VISIONコーディネーターの土屋貞雄さんが突然訪ねてきた時は、こんな大きなプロジェクトになるとは思いもしなかった」と、Re:吉野と暮らす会代表でホストリーダーの石橋輝てるいち氏（吉野中央木材㈱専務取締役）は振り返る。

翌2016年1月にはAirbnb共同創業者兼CPO

のジョー・ゲビア氏が現地視察のため町を訪問。その後も数回町を訪れる熱の入れようだったという。

ちょうど吉野町も町制60周年を迎え、『『木のまち吉野』未来宣言』を行ったタイミングで、町としてもAirbnbの申し出に応えようと話が進んだ。3月には町の事業として取り組むことを決定し、議会の同意も得て移築費用の2,000万円の予算も確保した（建築部材はAirbnbが町に無償譲渡）。

プロジェクト実現に尽力した吉野町参与の表谷おもたに充康みつやす氏は「偶然とタイミングが重なった。話が急展開したおかげでこれだけ実験的な世界初のAirbnb施設を吉野に作ることができた」と胸を張る。

■運営体制を整え更なる有効活用を目指す

「今ここに世界の注目が集まっているのは大きなチャンス。いい形で事業体による運営に移行し、専任スタッフを置くなど体制を整備したい」と言う石橋氏。「ここで得たノウハウは空き家利活用など地域の様々な課題解決に応用できる。更なる有効活用を進め吉野が地域として生き残るための拠点にしたい」と力を込めて語る。（吉村謙一）



2階にはヒノキ造りの部屋が2つ（左上）、地域の人も気軽に立ち寄れる1階コミュニティスペース（右上）、吉野川に面した広い窓と人が集える縁側が特徴的な外観（下）